

Title	大規模地震に対する自治体の事前準備と応急対策-想定外の出来事に備えるための組織のあり方とは-
Sub Title	
Author	北条, 由美子(Houjiyou, Yumiko) 高木, 晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2267号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2267

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	高木晴夫 研究室	学籍番号	80630944	氏名	北条 由美子
(論文題名)					
大規模地震に対する自治体の事前準備と応急対策 —想定外の出来事に備えるための組織のあり方とは—					
(内容の要旨)					
<p>我が国に住む限り自然災害を避けることはできない。とりわけ大規模地震は頻繁に起こっており、広範囲にわたって同時多発的な被害をもたらす。東海地震や首都直下型地震等は今もうすでに満を持しており、今この瞬間に起こっても何の不思議もない。</p> <p>大規模地震においては想定外のことが起こる。したがって「想定外のことが起こるということを前提においた備え」が必要である。</p> <p>大規模地震発生時に対応の主体となるのは自治体と地域コミュニティである。彼らは互いの努力のもと、連携しあいながら、被災時に起こるさまざまな出来事に対応していかなければならない。</p> <p>本研究の目的は自治体の事前準備に関する現状把握を行い、それらのあるべき姿について提言を行うことである。この目的を達成するために自治体危機管理担当者に対するインタビュー調査、全国自治体に対する大規模地震対策の実態調査、事例研究を行っている。</p> <p>またそれらに加えて、「想定外の出来事に対応しなければならない事態」における最適な組織として「自律分散組織」を取り上げた。当該組織をどのように大規模地震対策に応用するべきであるのかについて検討、現状の自治体組織との比較を行い、「自治体の役割とは何か」について提言を行っている。さらに地域自主防災組織を「学習する組織」と位置づけ、その牽引役を自治体が担うことを示唆している。最後に「学習する自律分散組織」を大規模地震時に活用することを提案して締めくくっている。</p> <p>巻末にはケース「中越大地震における長岡市の危機管理—事前準備の可能領域と事後対応での臨機応変—」を付録として掲載してある。</p>					